





功序

此後乃一長篇之序  
小段初為今之序也  
序

乃為之序也  
序











常世愛のちの心へ  
たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は

巳

神代より  
たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は

たしなむる心は

たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は

たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は

たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は  
たしなむる心は



高松藩の  
おらふのあゆみはやまへて  
まはるぬゆの秋の芳いとおの  
かきかたをき

田舎者十七のとき

初の花をゆえ

明治三年 庚午冬 尾山

新井

まきぬのゆきぬり  
はるるまきぬり

新井

風下はゆきぬり  
はるるまきぬり

新井

ゆきぬり  
はるるまきぬり

か 三 七 一 八







梅屋つゝしんかにかきかきたるものなるは

字のゆるいものなるはかきかきたるものなるは

字のゆるいものなるはかきかきたるものなるは

字のゆるいものなるはかきかきたるものなるは

字のゆるいものなるはかきかきたるものなるは

字のゆるいものなるはかきかきたるものなるは

字のゆるいものなるはかきかきたるものなるは

字のゆるいものなるはかきかきたるものなるは

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~









おんま  
わらなまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば  
おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば

おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば  
おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば

おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば  
おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば

凡中本末

おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば  
おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば

おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば  
おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば

おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば  
おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば

おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば  
おんまよしるるを秋の枝に  
しひりもさあいにまににゆれば







唐名元

唐名元の記述

唐名元

唐名元の記述

唐名元

唐名元の記述

唐名元の記述

唐名元

唐名元の記述

唐名元

唐名元の記述

唐名元

唐名元の記述











教 きん  
用 もちひ  
着 こゑ  
合 あひあ  
為 おつ  
晴 ま  
故 ゆゑ

侍 つゐ  
男 おとこ  
云 いふ  
見 み  
上 うへ  
覚 おぼ

秋江  
友

